

竹内 ひろゆきの一般質問



動画全編はこちら

青森県知事選挙における(弘前市長の)対応と、今後について

Q 選挙戦の対応を通じて、政策的批判ではなく、個人に対する批判は人間関係、政治家としての関係性構築の上で障壁になっていかないか？品格高い弘前市民の代表としての行動は、悲しい想いをしている弘前市民もいらっしやることを議論を通じて伝えたい。その上で、市長として、宮下新知事に祝電を送って以降、何らかのアクションはあったのか？

A 現在のところ、特にないものであります。

学校スキーについて

Q 学校でスキーの授業があるがゆえに、各家庭でスキー購入などの経済的負担を担っていただいていることが問題だと認識している。おさがり交換会など民間の動きで、そういった課題解決への取組をしているが教育委員会として連携できているか。

A 直接的な関わり、協力関係は特段ない。

提案・意見

協力体制の構築を模索してほしい。また、家庭の実態ニーズを把握するためにアンケート調査など手軽に行っていただきたい。私も実践してみる。

弘前さくら未来について

- 1 政策協定に基づき、「働く、仕事をする議会」となるために議会改革を推進します。
- 2 政党の枠組みを超えた自由な議論を通じ政策本位の会派活動を行います。(会派拘束は行わない)
- 3 定期的な報告会やレポートの発行を通じて、市民の皆様への説明責任を果たしていきます。

各議員連絡先

- ◆ 工藤ゆうすけ 080-1672-8981
- ◆ 赤平やすえい 090-5231-4887
- ◆ 樋川あっこ 0172-27-5761
- ◆ 成田大介 090-2026-6621
- ◆ 竹内ひろゆき 090-5835-6364

政策協定書

令和5年4月23日投票が行われた弘前市議会議員選挙は、投票率が42.92%と過去最低を記録した。この状況に我々は大変な危機感を抱き、市民の皆様へ議会活動を伝えていく必要性を改めて痛感している。そのため、議会基本条例の遂行と、より一層の議会の「見える化」を図り議会改革を実行するため下記通り協定を締結することとした。

- 1、議員公選制の導入
- 2、議会報告会の実施(議会基本条例第6条)
- 3、常任委員会の活性化と政策立案機能の強化(議会基本条例第12条、第18条)
- 4、SNS導入等による議会広報活動の充実(議会基本条例第22条)
- 5、議員定数見直しに関する取組(議会基本条例第24条)
- 6、議会の「見える化」に努める

弘前市議会 会派 弘前さくら未来 レポート Vol.1



議場にて、新たなメンバーでよろしく申し上げます。

会派報告会のご案内

日時：令和5年7月24日(月) 18:00~
場所：弘前学習センター

「新たな会派結成と6月議会について」

問い合わせ・連絡先

竹内 博之：hirosaki.genki.takeuchi@gmail.com
090-5835-6364

工藤 ゆうすけの一般質問



動画全編はこちら

市民の命を、食を守るための観点から、弘前市の農業における持続的発展のための取り組みについて

- Q 国が『みどりの食料システム戦略』を施行し推進している今、当市における人と自然に優しい『環境保全型農業』における取り組みや現状について問う。
また、当市でそういった農業形態を進めていくにあたっての課題、これからの推進方法を問う。
- A 国や県と連携しながら有機農業などによる環境負荷低減に取り組む農業を支援している。まずは『みどりの食料システム戦略』についての背景や具体的な内容を農業者などに知ってもらい意識醸成を図る。また比較的取り組みやすい作物を中心に段階的に有機農業の取り組みを促していく。

要望意見

今後もより人と自然に優しい『環境保全型農業』を推進していただき、その農作物を学校給食などに積極的に採用することにより、地産地消、地域経済、そして弘前市が掲げる『健康都市弘前』への実現にもつながるのではないかと。これからの時代に合った農業形態の在り方を今後も追及していただきたい。



赤平 やすえいの一般質問



動画全編はこちら

1. 当市の除排雪対策について

- Q 道路幅の狭い小路の除排雪における雪置き場が不足している。農地や学校の校庭はもとより、空地所有者の協力が得られるよう、新たな雪置き場開設のための支援策について問う。
- A 空き地を雪置き場として提供した際に、翌年度の固定資産税、都市計画税を3分の1以内の割合で減免する事業を実施している。

意見・要望

地域の声にしっかり耳を傾けて町会の皆さんが「やる気」がもてる対策を要望する。雪置き場の確保は待たなしの状況であり、市としての対応の強化を要望する。
バス事業を社会基盤の整備と捉え、まちづくりの一環として計画的に整備を進めていくことを要望する。

2. 生活・仕事応援センターにおける相談体制の充実・強化にむけて

意見・要望

現状、センター室内の相談窓口は大変窮屈でせまく、個別具体的な相談事に対して相談者のプライバシーを確保できていないと感じているので、個室の相談室の設置を検討されるよう要望する。また、地域共生社会実現の一つとして当センター役割は大きいことから、引き続き、多様な働き方も含めてボランティアや「福祉的就労」などの「居場所づくり事業」への支援強化を要望する。



樋川 あつこの一般質問



動画全編はこちら

- Q 教育行政について教員不足が全国的に問題となっている今、子どもたちと教員の時間を確保するための弘前市としての対策は？
- A 現在36名の教員が未配置の状態。教員の負担軽減のため、事務作業スタッフとしてのスクールサポーターの配置や、ICT支援員の導入、その他学校支援ボランティアの募集の周知を図るなど、対策を行っている。

提案

1時間目が始まる前の朝の時間の使い方について。先生が教室にいないことができない場合も、子どもたちの自主的な学びを促進するために、今年度から全生徒の端末に導入されたAIドリルによる問題演習や、豊かな感性を身に付ける読書の推進など、朝の時間の有効活用を提案しました。

- Q 7月2日に開校する、「ひろさきガイド学校」は有償ボランティアの育成コースもあるが、講座修了者の活動支援もしっかり行われるのか？
- A これまでガイドに関する取り組みは、「育成」が中心だったが、新たに「活動支援」を追加することで、育成から活動支援まで一貫した全国初の取り組みとして展開していく。

提案

弘前市出身の県外在住者からの申し込み者も2名おり、応募者も多数で大変期待される。自然、歴史的資源、芸術資源に恵まれた弘前の魅力を全国・世界に発信していくさきがけとなるよう、市が主体となって、ガイドの受け皿を積極的に作っていく取り組みを強く要望しました。

成田 大介の一般質問



動画全編はこちら

男女共同参画プランについて

- Q 弘前市男女共同参画プラン2023「一人一人が互いを尊重しあい、心豊かに暮らせるまち弘前」の特色や取り組みを問う。
- A すべての人が互いにその人権を尊重しながら、責任を分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現は、市政全般に及び施策の根底をなすものであり、本プランを確実に推進していくため、関係機関とも連携を図りながら引き続き取り組みを進めて参ります。

要望意見

若年層の方も活躍していける社会作りにしっかりと取り組み、ヤングケアラー支援やDV対策、さらには、マイノリティーと言われる方々の声をしっかりと拾い上げていただきたいとお願い申し上げます。

ヒロロスクエアの現状と今後について

- Q 旧弘前市立病院の活用方針の項目を見ると、現にヒロロスクエアにある機能と重複があるが、市の見解は。
- A ひろさき生活仕事応援センターや権利擁護支援センターは手狭となっており、スペースの確保へ向けて検討していく。

要望意見

弘前生活仕事応援センターや弘前圏域権利擁護支援センターを見る限り、非常に手狭である。市民の皆様が相談したくても話にくいような場所ではないかと感じております。さらには、市民生活に関わる部署として、仕事をする職員のモチベーションが上がらなければ、市民サービスの向上にはつながりません。今後スペースの検討をするにあたっては、市民サービスの向上とそれに対する費用効果も考慮しなければなりません。相談スペースに関しては早急に対処していただきたい。